令和5年度　NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会　事業報告書

１．総括

令和５年度はコロナも 5 類へ移行し、当法人及び各地域の会員団体についても講座開催ができるようになり、指導者養成講座や水辺関連イベントが徐々に回復してきた。

昨年コロナで中止になった福島県の三春ダムでの E ボート乗船体験も今年は開催され、また、岡山県でも水辺の安全講座を開催した。7 月にはライフセービング協会と共同で、カヌースラロームセンター（東京都江戸川区）において学校体育プログラム構築を目的とする子どもたちの水辺体験を開催した。7 月には保育園の園児を多摩川の窯の淵で川遊び体験を行った。また、一昨年から行われているシャワークライミング講座を令和 5 年度は全国 7 か所で開催した。9 月には当法人初の沖縄での RAC リーダー講習会も開催された。10 月には福井県で全国大会が開催され約 300 名の方が参加した。名古屋の庄内川では自治体主催の水環境改善に向けたイベントの一部として RAC 指導者による安全講習と E ボート体験会を行った。信濃川の三条防災ステーションでの「さんじょう消防・防災フェスタ 2023×ミズベリング三條フェス」内で水辺の安全講習会及び E ボート乗船体験が行われた。

写真 1. ライジャケで浮く体験
（カヌー・スラロームセンター）

このように、様々な地域で水辺の体験活動が徐々に動き出しているが、指導者養成をより推進する必要がある。

会員の入会状況

種別 / 会員区分	団　体		個　人	
	R4	R5	R4	R5
正会員	75	74	6	6
一般会員	30	19	0	0
賛助会員	0	0	0	0
計	105	93	6	6

（R6 年 3 月 31 日現在）

２．会議

（１）理事会　―　令和 4 年度の活動報告・会計報告、令和 5 年度の活動計画・収支予算等について審議の上議決した。

[開催日時]　令和 5 年 5 月 27 日（土）　13：30～14：30

[開催場所]　東京都　渋谷区　国立オリンピック記念青少年総合センター　センター棟

住所：東京都渋谷区代々木神園町 3-1

（2）総　会　―　令和 4 年度の活動報告・会計報告、令和 5 年度の活動計画、収支予算等について審議の上議決した。

[開催日時]　令和 5 年 5 月 27 日（土）　14：30～17：00

[開催場所]　東京都　渋谷区　国立オリンピック記念青少年総合センター　センター棟
住所：東京都渋谷区代々木神園町 3-1

（3）常任理事会　―　業務執行に関する検討や講座及び資格の認定審査を行った他、下記の日程で業務進捗状況、財政状況の確認等を行った。

[実 施 日]　第 1 回　令和 5 年　4 月 26 日
第 2 回　〃　9 月 15 日
第 3 回　令和 6 年　1 月 16 日
第 4 回　〃　2 月 26 日

[場　　所]　第 1 回 ZOOM 会議、第 2，3 回河川財団+ZOOM 会議

（4）専門部会・委員会

下記の専門部会ごとに主な事業を推進した。

① 企画総務部会

全国大会は令和 5 年 9 月に福井県で 2 回目の開催。RAC フォーラムは令和 6 年 3 月に東京海洋大学（東京）にて対面形式にて開催した。

RAC 認定川育ライフジャケットの子ども用を 300 着増産し、会員団体が積極的に販売できる仕組みや、その保管・販売ルートについてクリアウォーターの協力により整備した。販売用 E ボートの在庫を補充するため仕入価格等を交渉し、注時期や販促方法について検討を要している。

RAC の事業管理を見える化するために、EXCEL で仕訳管理用のシステムを構築した。未だに間接経費負担の増大による経営圧迫が課題となっているので、再検討が急務の状況となっている。

② 人材育成部会

各地で講座開催が活発に行われた。新規の付加資格講座「シャワークライミングガイド講習会」は５会場で９０人の参加を受けて開催ができた。

トレーナー更新講習会も開催して RAC 活動の核になるトレーナーの確保維持を進めた。

・RAC リーダーの養成と育成

毎年実施している団体があるが長く開催をしていない団体やトレーナーも多い。各地での開催支援を進めたい。アシスタントリーダーからリーダー登録への道筋や OJT 制度の理解が進んでいない。

・RAC アシスタントインストラクター講座

１日講座の RAC アシスタントインストラクター講座を新設したが取り組みが少ないので、会員団体の理解と取り組みを進めたい。

・トレーナー更新講習会とトレーナーミーティング

RAC フォーラム開催時に行って更新トレーナー以外のトレーナーにも参加してもらえた。

・シャワークライミングガイド講習会

九州、中国、四国、中部、関東、東北の各地で実施できた。各地に講師を配置でき新しい加入団体を得ることができた。

③ 学校連携部会

学校連携部会では、小学校との連携を図りながら川の活動を教育活動の一環として実践してもらうように、教科や単元と関連付けた学習内容を検討し、学校現場で活用しやすいように工夫し提案してきた。しかし、実情として、小学校以上での導入のハードルが高いこともありと幼児を対象とした河川での体験活動プログラムの構築を検討した。理由は、河川基金において幼稚園や保育園からの申請が増えていることや、幼児期での体験活動の効果が高いことが実証されており、教育課程における自由度の高い幼稚園や保育所を対象とすることは一定の効果が得られると考えました。ＲＡＣ事務局や河川財団と協力して幼児向けプログラムの開発計画や実践例についてアンケートを取り結果を分析整理し幼児教育プログラム（案）として作成することができた。

④ 組織強化部会

・既存の受託事業以外の受託の為の動きをしていきたいと考えているが、なかなか形にならない 1 年であった。東京都教育庁からの受託も雨天対策や受け入れ人数の課題があり受託につながらなかった。
・東京葛西のカヌースラロームセンターを活用した水辺の安全講習をライフセービング協会と共に実施したが、収益につながる形ではなかったので改めて指定管理者である株式会社協栄さんとのコラボ事業などを提案し仲間になっていただきたいと考えている。
・引き続きこれまで RAC には無かったチャネルの共労や受託などの機会を獲得していきたい。
・会員向け行事を外部へのアピールする場として機能させることにより、川の体験活動や RAC のことをより広く知ってもらえるようにする方策について検討した。営業的立ち回りをする人材をどのように確保するかなど課題が残っている。

（5）専門委員会

① 審査認定委員会

・講座開催審査や支援条件整理、指導者修了確認・認定等を行った。

② 安全対策委員会

・水辺体験活動での事故等の発生防止に向けて講座等の実施体制等を注視した。
・川育ライフジャケットの認定ガイドラインの見直しを行い、9 月に VerⅢを公表した。
・ゴールドウィン社からの川育ライフジャケット認定申請を受け審査し、承認した。

３．川の指導者養成等

RAC リーダー養成講座が 12 講座、インストラクター養成講座は 1 講座、アシスタントリーダー養成講座は 7 講座開催された。コロナが落ち着き川遊びなどが再開されると同時に、水難事故が増えた感じ

が否めない。今後も水辺のリスクが高まっていくことが想定される。身の守り方を伝えるためには川の指導者数を増やすことも必須である。まずは川の知識を広く認知してもらい、日本全国の RAC の団体には川の指導者講習会を開催してもらい RAC の発行する資格の優位性を理解してもらう必要がある。

（1）ＲＡＣ指導者講座の開催

令和 5 年度については川の指導者の養成講座を、全国各地の団体が地元などの河川において展開した。ＲＡＣリーダー養成講座については全国各地で 12 講座開催、インストラクター講座を青森県で 1 講座開催した。また、アシスタントリーダー講座については 7 講座開催した。今年度はトレーナー研修会が 5 月に開催され 3 名の新トレーナーが誕生した。RAC では沖縄県大宜味村で初めてのリーダー講習会を開催した。登録者は少なかったが今後に繋げれる講習会になることが感じられた。

写真 2.「アシスタントリーダー講座」埼玉県

写真 3. 「RAC リーダー講座」沖縄県

【各種講座開催及び修了状況】

種別 / 年度	RAC アシスタントリーダー（基礎講座）		RAC 学校リーダー※1		リーダー		インストラクター（Ⅰ）		コーディネーター（インストラクターⅡ）		トレーナー	
	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数	講座数	修了者数
H13(2001)	(12)	(966)	－	－	5	52	0	0	0	0	0	0
H14(2002)	(3)	(83)	－	－	15	528	5	126	0	0	暫定	24
H15(2003)	(4)	(10)	－	－	24	446	3	52	0	0	1	17
H16(2004)	(1)	(14)	－	－	26	387	3	32	0	0	2	16
H17(2005)	(0)	(0)	－	－	27	266	3	25	0	0	1	14
H18(2006)	(2)	(49)	－	－	27	207	3	22	1	4	1	9
H19(2007)	(6)	(141)	－	－	25	376	0	0	0	0	0	0
H20(2008)	(3)	(38)	－	－	26	319	2	0	0	0	0	0
H21(2009)	(4)	(22)	－	－	33	334	4	48	0	0	0	0
H22(2010)	(1)	(12)	－	－	35	338	2	22	2	6	1	6
H23(2011)	(0)	(0)	－	－	33	287	5	43	0	0	1	4
H24(2012)	(3)	(26)	－	－	26	234	3	12	1	7	1	4
H25(2013)	1	7	－	－	18	168	0	0	0	0	1	1
H26(2014)	2	25	3	25	14	131	0	0	2	10	1	2
H27(2015)	5	85	1	10	16	124	0	0	0	0	1	6
H28(2016)	7	78	0	0	14	127	0	0	0	0	0	0
H29(2017)	13	85	1	13	13	108	1	2	0	0	0	0
H30(2018)	10	56	1	0	13	105	0	0	0	0	1	5
R1(2019)	10	70	0	0	14	86	0	0	0	0	1	5
R2(2020)	6	26	0	0	8	62	0	0	0	0	0	0
R3(2021)	6	33	0	0	7	41	0	0	0	0	0	0
R4(2022)	10	111	0	0	11	69	1	3	0	0	0	0
R5(2023)	7	98	0	0	12	55	1	0	0	0	1	3
計	116	2130	6	48	442	4850	37	390	6	27	14	116

※1　RAC アシスタントリーダーは H25 までは基礎講座の講座数及び修了者

（２）付加資格関連講座・専任講師養成講座の展開

今年は「E ボート指導者講座」が 3 講座、「RAC リスクマネジメント講座」1 講座、「RAC レスキュー講座」が 1 講座開催された。一昨年から開始された「RAC シャワークライミング講座」が日本各地で 7 講座開催され、修了者 78 名であった。

種別 / 年度	水辺のリスクマネジメント講座		水辺のリスクマネジメント専任講師養成		水辺のレスキュー講習		水辺のレスキュー専任講師養成		Eボート指導者		Eボート指導者専任講師養成	
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者
H20(2008)	10	180	4	67	0	0	0	0	0	0	0	0
H21(2009)	6	64	0	0	3	18	5	24	3	36	4	27
H22(2010)	2	28	0	0	3	16	0	0	3	26	0	0
H23(2011)	4	51	0	0	8	77	1	3	6	68	1	3
H24(2012)	3	31	0	0	5	29	0	0	9	90	3	9
H25(2013)	4	42	0	0	5	41	0	0	11	115	2	10
H26(2014)	4	18	0	0	2	27	0	0	8	71	0	0
H27(2015)	2	11	0	0	1	12	0	0	14	84	0	0
H28(2016)	3	21	0	0	1	16	2	0	6	38	0	0
H29(2017)	1	21	0	0	2	31	3	16	5	41	0	0
H30(2018)	2	19	0	0	1	11	0	0	4	23	0	0
R1(2019)	1	6	0	0	3	23	0	0	3	16	0	0
R2(2020)	0	0	0	0	1	11	0	0	1	6	0	0
R3(2021)	4	23	0	0	1	11	0	0	6	37	1	5
R4(2022)	1	9	0	0	2	28	0	0	5	30	1	5
R5(2023)	1	8	0	0	1	13	0	0	3	18	0	0
計	48	532	4	67	39	364	11	43	82	670	11	42

種別 / 年度	水辺のファーストエイド講習		水辺のファーストエイド講習専任講師養成		RAC 水辺の生き物講習会		学校連携コーディネーター養成講座					
							(基礎課程))		(応用課程)		(専修課程)	
	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者	講座数	修了者
H24(2012)	1	15	1	(11)	0	0	0	0	0	0	0	0
H25(2013)	4	42	0	0	1	3	1	16	1	9	0	0
H26(2014)	3	0	1	0	0	0	3	34	0	0	0	0
H27(2015)	1	20	0	0	0	0	1	10	1	3	0	0
H28(2016)	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	1	3
H29(2017)	0	0	0	0	1	2	1	4	0	0	0	0
H30(2018)	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0
R1(2019)	0	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0
R2(2020)	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R3(2021)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R4(2022)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R5(2023)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	10	85	1	(11)	2	5	9	81	2	※12	1	3

※修了実習待ち含む。

種別 年度	シャワークライミング講座	
	講座数	修了者
H30(2018)	－	－
R1(2019)	－	－
R2(2020)	1	40
R3(2021)	3	25
R4(2022)	0	0
R5(2023)	7	65
計	11	130

写真 4. シャワークライミング講座（大分県）

写真 5. レスキュー講座（福岡県）

写真 6. リスクマネジメント講座

（東京都：カヌー・スラロームセンター）

４．全国大会等

（１）第 22 回川に学ぶ体験活動全国大会 in 越前若狭

□　開催日時：令和 5 年 10 月 21 日（土）・22 日（日）

□　場　　所：21 日（土）会場　福井県福井市繊協会館

22 日（日）エクスカーション

A コース：まちなか足羽川パドリング川下り

B コース：フリースタイルカヤック観戦とチャレンジ

C コース：九頭竜ダム湖ジオツアー

D コース：竹田の龍ヶ鼻ダムで冒険カヤック

E コース：永平寺での「禅と酒と食」を体験！

F コース：縄文ロマンパークで悠久の時を感じよう！

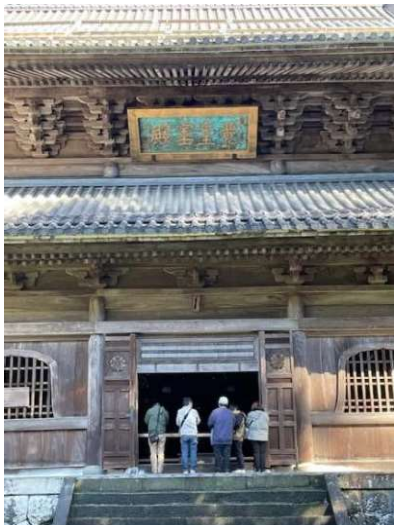
写真．集合写真

□　概　　要：

全国大会の当日は朝からサイトツアーが開催され「ナミノバ」と「シカノバ」の見学を行った。九頭竜川の中流の永平寺町では川を活かした川作りを進められている。フリースタイルカヤックで毎年国際大会に参加している松永和也氏の提案で九頭竜川でカヤックができるようにしようということになりフリースタイルカヤックの拠点の「ナミノバ」と九頭竜川鹿鳴大橋の上流にある「シカノバ」を整備して 2023 年からパドリングスクールが開校されている。参加者からはクラウドファンディングによって整備されたことがとても素晴らしいなどの意見があった。

開会式では副実行委員長の宮尾代表理事から RAC の紹介とともに挨拶がおこなわれ、国土交通省の河川環境課長から開会お祝いの挨拶がされた。

基調講演は福井県出身の超行動派動画クリエーターの Kazu 氏より「私たちが発信者」と題して行われた。自己紹介ののちにガジェット紹介として Go puro や 360 度カメラ、アタッチメントなど動画を撮影するときに役立つ機器類の紹介がなされた。その後、参加者からの質問があり、機器や操作に関する様々な質問があった。参加者は、さらに動画を上手に撮影して発信することができるのではないかと思われる。



写真．永平寺（エクスカーション）

次のパネルディスカッションでは田中彩愛氏の司会の元、“川の体験“ノウハウ大百科とする劇場型事例発表とクロストークショーがおこなわれた。コーディネーターは福井工業大学の下川勇氏をお招きした。はじめに各地域で体験活動をおこなっている方々に発表していただいた。北海道でカヌー活動を行っている大内雅司氏、長野県白馬でラフティングガイドをしている小畑明日香氏、岩手県くりこま高原で活動をしている住吉利允氏、福島県会津で小学校で川の安全について活動をしている二瓶重和氏、アウトドアグッズを販売している平岡和彦氏が自分たちの発表をおこなった。その後に下川氏のコーディネートでトークショーが開催された。

大会のまとめとして斉藤氏から全国大会の経緯や田中氏との関係などについて話があり、午前のサイトツアーの訪問先となっていたシカノバ、ナミノバなどの素晴らしい取り組みが紹介された。その後大会宣言として大会実行委員長の坂本均氏より～共に創り安全で豊かな「川の未来！」～として、現在の危機と真摯に向き合い、安全で楽しい川の体験活動を推進するため誓いをあたらにするという大会宣言がなされて大会を終了した。

その後、交流会では恒例の景品などのくじ引きなどがあり、とても盛り上がった。

翌日は天気もよくさまざまたな体験活動に絶好の日であった。A コースでは足羽川パドリング川下りがおこなわれた。昨日の雨で水量も丁度よくなり、カヌー、SUP、E ボート様々な乗り物を楽しんでいた。B コースではナミノバでフリースタイルカヤックの松永氏を迎えた実際の競技を観戦したり、体験を行った。C コースは E ボートで化石が発掘できる場所まで行き、実際に化石を発掘する体験を行った。D コースは廃校をリノベーションして拠点として活動をしている団体の案内で湖畔で冒険カヤック体験を行った。クロサンショウウオなどの話もされた。E コースはバスで永平寺まで行き、座禅体験を行い、その後、福井の有名な酒蔵である黒龍が新設した発泡酒の貯蔵庫を見学するとともにモダンなレストランで素晴らし景色を見ながら食事とおいしいお酒を楽しんだ。F コースは縄文ロマンパークで悠久の時を楽しんだ。

それぞれのエクスカーションも終わり、参加者の人達は楽しい思い出を胸に帰路についた。

（２）第２１回ＲＡＣフォーラム等の開催

日　時：2024 年 3 月 9 日（土）13：00～17：00

場　所：東京都江東区　東京海洋大学　越中島キャンパス　１号館

概　要：

開会式では当法人の代表理事宮尾からの挨拶と国土交通省の河川環境課長からご挨拶があった。

基調講演では「川の自然体験活動のあらたなリスク」題して当法人の人材育成部会長から講演を行った。1 月 1 日に発生した能登半島での震災についての話をし、実際にボランティア活動での体験を話した。衛生管理などでトイレ掃除などもしたことなど、また医師と看護師の方々の被災者に対する対応の仕方がとても素晴らしく勉強になったなどの話があった。その後、本題の昨年の 5 月に発生したみなかみのラフティングの死亡事故の事例を主体に体験活動におけるリスクおよび事故発生後の対応について話を受けた。

写真．基調講演

写真．第３分科会

第１分科会では水辺の事故ゼロに近づけるために「事故ゼロ宣言」に近づけけられればという議論がされた。

しかし、事故事故とばかり言うのではなく、川の安全確保や危険回避等も大事であるが、川の楽しさこそ大切であると言う意見や RAC の認知度を上げる為にもっとネットなどを使う、動画配信と学校教育も必要であるという様々な意見が出た。

第２分科会では質の高い組織と事業づくり…子ども（参加者）にとって安心安全な組織・事業づくりを目指すという趣旨で議論された。マニュアル化が重要であるが、徹底されていなければ意味がないなど、また、子どものセーフガーデニングについても議論された。第３分科会では、川の生き物と環境ということで議論がされた、生き物が住みやすいところは人間も歩きやすいなど、川を楽しむことから川の生態系を知ること、子どもは生き物は大好きなのでふれあいの機会をもうけていければなどの報告があった。また、当法人の団体会員でもある「鰻の食文化と鰻資源を守る会」の方からは鰻についての生息など詳しいお話をしていただき。令和６年から手賀沼でも鰻の放流をすることなどの話題提供があった。

全体会では、各分科会での議論の概要の共有がなされた。

５．調査検討事業

（１）調査検討業務

写真 13. 信濃川 E ボート乗船体験

写真 14. 庄内川 E ボート乗船体験

令和５年度の河川事務所からの事業は１事業であった。信濃川下流河川事務所から新潟県信濃川の三条市防災ステーションにて行われた「さんじょう消防・防災フェスタ 2023×ミズベリング三条フェス！」内にて水辺の安全講習及びＥボート体験乗船会を開催した。陸上講習では水辺で安全な楽しみ方やライフジャケットの重要性を伝えた。信濃川では今年は水量が少な過ぎて防災船着き場が機能せずボートに乗船することがとても大変であった。すのこやブルーシートを敷いて簡易乗船場を作り、子どもを含めて約 70 名の方が体験した。

名古屋市から河川財団名古屋事務所経由で「令和 5 年度庄内川における環境教育事業」として庄内川での事業を請負った。自治体主催の水環境改善に向けた市民向けイベントの一部としてではあったが、メインステージでの水辺の安全に関する講習及びＥボート乗船会を行った。乗船会では春日井市長や名古屋市長も含め約 70 名の方が E ボートに乗船をして庄内川を楽しんでいた。

また、7 月には幼児の河川教育ということで河川財団とのサポートで保育園の川体験サポートを行った。バオバブ保育園という多摩市の保育園である。毎年、お泊り保育をしていたが、今年は川で遊ぶ体験をしたいと当法人に相談があった。事前にプログラム作りから体験場所の選択など保育園の先生を協議をして、準備を行った。少し冒険的なプログラムも入れて 24 名の児童が体験を行った。安全にはＲＡＣの指導者及び保育士の人達も含めて充分に配慮をして活動を行った。

写真 15．安全についてのお話

写真 16．川遊び体験

６．広報・普及活動

（１）川育ライフジャケット認定制度の普及

これまで我が国には「川遊び用のライフジャケットとして推奨できる安全基準」や「試験・認定制度」が存在していなかったが、RAC では「川という自然環境下での体験活動に適した安全基準として、「RAC 川育ライフジャケット認定ガイドライン」を平成 26 年（2014 年）に関係各機関の協力のもと構築している。令和５年３月現在、12 種類の製品が認定を受け、水辺シーズンを中心に全国各地の大型スポーツ用品店や、ホームセンター等で提供が継続している。

民間団体が近年制定した新たなライフジャケットの基準やメーカーの動向も注視しつつ、RAC の認定ガイドラインの見直し検討作業を行った。

（２）広報活動

・メールマガジン「RAC NEWS」を随時回発行した。また、Facebook なども活用して情報発信を行った。

・RAC ホームページのリニューアルを継続するとともに随時更新した。

（３）川の指導者の資機材

一作年はまだコロナの影響でレンタルも伸び悩みであったが、2023 年度はコロナも治まり全国各地で自然体験活動が活発に行われた。そのためにコロナ前の数には戻っていないが、たくさんの数のレンタル申込あった。7 月、8 月には大口のレンタルの申込もあり、数が不足するのではないかと心配をした。令和 6 年度についてもたくさんのレンタルの申込があると推測される。

昨年は販売できるライフジャケットがなかったが今年は 300 着（子ども用）販売ができることになっている。E ボートについては在庫が一艇あるのみである。

【RAC 機材一覧】

No.	資機材名	数	単位	備考
1	ライフジャケット（幼児用）	52	着	
2	ライフジャケット（低学年用）	122	着	
3	ライフジャケット（子ども用）	492	着	
4	ライフジャケット（大人用）	210	着	
5	ライフジャケット（プロ用）	14	着	
6	ヘルメット（子ども用）	95	個	
7	ヘルメット（大人用）	154	個	
8	スローロープ（15m）	11	本	
9	スローロープ（20m）	35	本	
１０	E ボート	10	艇	グラブナー社 G タイプ
１１	ポンプ	16	個	
１２	パドル	140	本	一部スチール
１３	ウエットスーツ	71	着	

【R5 レンタル状況】

ＰＦＤ	ヘルメット	スローバック	E ボート
1,417	312	14	5

※自主事業利用含

年度	総数
2018 年	1,888
2019 年	1,627
2020 年	382
2021 年	599
2022 年	1,025
2023 年	1,417

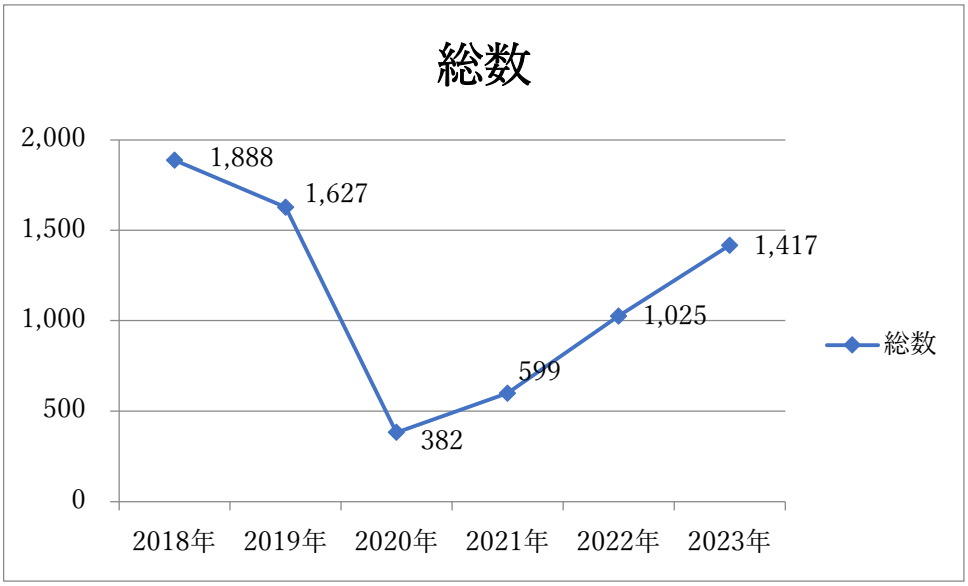


表 1. ライフジャケットレンタル状況

７．その他

（１）水辺体験イベント等

令和 5 年度はコロナがだいぶおさまり各地域で活動が行われているがまだまだ、本来の数には程遠いと感じる。5 月には福島県の三春ダムで E ボート 4 艇の体験乗船会や 6 月中旬に岡山県環境保全事業団から水生生物観察の講座を行っている人達に水辺の安全講座をやって欲しいと依頼があった。水生生物観察をしている人たちはライフジャケットを着なくても大丈夫など、いろいろな面で課題があった。今年もミズベリング関連で江東区の汐濱運河で E ボートレース大会のサポートを行った。令和 5 年度は５団体が参加して順位を競っていた。今年は E ボート体験乗船のイベントが非常に多かった。福島県の三春ダムをはじめ、信濃川下流河川事業の三条市防災ステーションでの乗船会、木曽川での E ボート乗船会も行われた。カヌースラロームセンターでは子どもたちの安全教室も開催された。

写真 16. 写真.水辺の安全講座（岡山県）

写真 17. E ボート指導者講習会（栃木

M

写真 17. 信濃川 E ボート乗船会

写真 18. 大宜味村中学生安全講座

写真 19．カヌー・スラロームセンター
水辺の安全講座

写真 20．福島県三春ダム E ボート体験

（2）河川協力団体

・荒川下流河川事務所・利根川下流河川事務所の河川協力団体関連事業として、3 月 17 日に旧中川と荒川ロックゲートを使って、防災学習を含めた E ボート体験乗船を行った。今年度は利根川下流では何も活動をすることが出来なかった。

写真 21．E ボート乗船防災体験

写真 22．荒川ロックゲート通船体験